

国民体育大会優勝者寄稿

2年連続優勝の喜び

ウエイトリフティング競技 少年男子+105kg 級
スナッチ 1位 (大会新記録)
クリーン&ジャーク 1位 (高校新記録)

滑川高等学校 3年 村上 英士朗

私は、東京都で行われた国民体育大会にウエイトリフティング競技の少年男子+105kg級の選手として出場しました。結果はスナッチで大会新記録の153kg、クリーン&ジャークで高校新記録となる192kgを成功しトータルでも345kgの大会新記録で優勝することができました。

インターハイが終わり、国民体育大会に向けて練習していたところ、以前から痛めていた膝の怪我が悪化してしまい、万全な状態で試合に臨むことができず、いつも以上に緊張していました。しかし、会場の雰囲気やライバルである知念君と話をしている間に「絶対に勝って優勝したい」という気持ちが強くなりました。その結果、多くの大会新記録、高校新記録を樹立することができて本当に嬉しかったです。高校1年生の国民体育大会では、2つ上の先輩に負けてしまい悔しい思いをしましたが、高校2年・3年と2年連続優勝し、富山県に貢献することができ、とても嬉しいです。これも応援してくださった多くの方々のお陰だと感謝しています。これからも国民体育大会に出場し高得点を取り続けることができるようにがんばります。

今後は、今回の国民体育大会を通して学んだことを活かし、練習方法を改善し、今まで以上に質の高い練習をしていきたいと思えます。大学に進学してからもウエイトリフティングを続け、2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックに出場し、良い成績を出せるよう日々精進していきたいです。



落ち着かせてくれた母の言葉

ライフル射撃競技 少年男子 ビームピストル 40 発競技 1 位

南砺福光高等学校 3 年 中川 将彰

練習ではある程度の点数は出しているのに本番では出せないのは自分の問題だと一時期悩んでいました。その悩みに答えを出せないまま臨んだ昨年の岐阜国体は 13 位、3 月の全国高校選抜大会は 9 位とふがいない結果でした。自分の弱さと甘さに問題があると思い、いつもの練習から大会のときのプレッシャーに負けないことと油断しないことを意識しながら練習をするように心がけました。

そして迎えた東京国体。本戦では周りを気にせず自分の射撃をすることができました。最後の一発まで諦めず、油断しないで最後まで集中力を保つことができました。本戦は 370 点の 2 位通過で上位 8 名のファイナル競技に進出できたものの、初めてのファイナル競技に緊張して自分を見失いそうになりました。そのとき、国体会場に出発する前に母が「最後くらい楽しんでおいで。」と言ったことをふと思い出し、落ち着くことができました。

ファイナル競技は、ファイナリスト 8 人が 0 点からスタートし、まず、3 発、3 発、2 発の計 8 発で 8 位が確定して、さらに 2 発撃って計 10 発で 7 位が確定してというように 2 発ごとに点数の低い人から順位が決定していき、最終的に計 20 発を撃ったところで 1 位、2 位が確定するというプレッシャーのかかるルールに今年から変更され、少し戸惑いもありました。しかし、自分の射撃をすることと楽しむことを忘れずにファイナル競技に臨むことができました。ファイナルの後半では、絶対にど真ん中を撃ち抜いてやるという強い気持ちで撃ち、1 発 1 発を丁寧に撃つことができました。20 発目を撃ち終わり、気がつくとも 1 位になっていて、正直信じられませんでした。

高校 3 年間の間にライフル射撃からたくさんのお話を学ぶことができました。また、ライフル射撃協会の方々や、先生方、仲間たち、家族の支えがあり、このような結果を出すことができ、とても感謝をしています。これからもライフル射撃を続け、次はエアピストル競技で頂点を狙っていきます。

